

令和8年第2回木津川市議会定例会（6月15日）

一般質問通告書

1 山本 しのぶ	
質問事項： 手話施策推進法を踏まえた本市の取り組みについて	
質問 要 旨	<p>耳が聞こえない、聞こえにくいことで必要な情報が届かず、不安や困難を抱える市民がいます。情報を得て意思を伝え、社会に参加することは、すべての市民に保障されるべき権利です。令和7年6月に公布された「手話施策推進法」では、自治体に対し、手話学習の推進、生活環境の整備、市民理解の促進が求められています。そこで、以下質問します。</p> <p>(1) 本市の小中学校では現在どのような手話学習を行っていますか。また、今後どのように学ぶ機会を広げていく考えですか。</p> <p>(2) 市民が手話に触れる機会をどのように提供し、今後どのように理解促進を進めていく考えですか。</p> <p>(3) 手話を必要とする子どもと保護者への支援体制をどのように整えていますか。</p> <p>(4) 登録手話通訳者及び登録要約筆記者の人数、育成体制、派遣状況、報酬などの処遇について伺います。</p> <p>(5) 窓口対応や相談支援の充実に向け、手話通訳者を市職員として配置する考えはありますか。</p> <p>(6) 聴覚障がいのある方の社会参加を支えるため、情報保障やコミュニケーション支援をどのように進めていますか。</p> <p>(7) 避難所開設・運営マニュアルにおける聴覚障害者への支援体制について伺います。</p>
質問事項： 大地震では耐震性が被害の明暗を分ける	
質問 要 旨	<p>「大地震では、住宅の耐震性が被害の明暗を分ける」とされています。国は、グリーゼン木造住宅と呼ばれる平成12年5月以前（2000年基準以前）の木造住宅についても、耐震診断・耐震改修の必要性を示しました。現在、各地で補助対象拡充の検討が進む中で、本市においても市民の生命・財産を守り、在宅避難や早期復興につなげるため、木造住宅の耐震診断及び耐震改修補助制度の対象拡充を検討すべきと考え、以下質問します。</p> <p>(1) 本市の木造住宅本格耐震改修事業補助金について、令和4年度から令和7年度までの各年度の前年度時の件数・実績件数・延べ実績件数を伺います。</p> <p>(2) 昭和55年以前に建築された旧耐震木造住宅の件数と、平成27年（2015年）、令和2年（2020年）、令和7年（2025年）の旧耐震木造住宅の滅失件数を伺います。</p> <p>(3) 国は能登半島地震調査報告において、昭和56年の新耐震基準導入以降で平成12年の2000年基準以前に建築された木造住宅にも耐震性が不十分なものと公表しています。これらのいわゆるグリーゼン住宅について、国の交付金対象となっているか伺います。</p> <p>(4) 本年度の「建築物耐震改修促進計画」の見直しにおいて、国が示す「耐震性能検証法」を活用し、グリーゼン住宅を補助対象として位置づける考えはあるのか。また、今回の見直しで位置づけない場合、その理由を明確に伺います。</p>
質問事項： クビアカツヤカミキリの被害と対策について	
質問 要 旨	<p>全国的に、サクラ、モモ、ウメなどを枯らす特定外来生物「クビアカツヤカミキリ（以下、クビアカ）」の被害が急拡大しています。本市でも被害が確認され、景観悪化や倒木事故、農業被害が懸念されます。早期発見・早期防除が重要であることから、以下質問します。</p> <p>(1) 各地でクビアカの被害が急拡大している要因を、市はどのように分析していますか。</p> <p>(2) 現行の予防・巡回監視・防除の具体的内容は。また、今の体制で被害拡大を防げるとの考えですか。</p> <p>(3) 私有地の被害把握と相談体制はどうなっていますか。被害木が放置された場合、市はどのように対応しますか。</p> <p>(4) 市民への啓発をどのように進めますか。市民参加の監視・通報体制を構築する考えはありますか。</p>

- (5) 被害樹木の所有者等への防除費用補助制度を創設する考えは。また、環境省の特定外来生物対策費の活用は可能ですか。
- (6) 財源確保のため、循環型社会推進基金を環境保全全般に活用できるよう、条例見直しを検討する考えはありますか。

2 山崎 光祐

質問事項：「子供たちが未来の木津川市にワクワクできるまちづくり」を

私が小学生の頃、大阪府・京都府・奈良県にまたがる丘陵地帯に学術研究都市構想が策定され、私の生まれ育った旧木津町もその計画地域となりました。それと前後して、平城・相楽ニュータウンが開発され（令和4（2022）年にまちびらき50周年）、旧木津町の人口は少しずつ増加していきました。当時の町広報に記載される人口推移を、今月は何人増えた、などと毎月楽しみに見ていた記憶があります。同じころ、JR奈良線が電化され、また昭和63（1988）年に城陽、田辺西間で開通した京奈和自動車道が平成5（1993）年に山田川IC、平成12（2000）年に木津ICまで延伸しました。また平成元（1989）年には木津川台がまちびらきするなど、私の子供時代は、これからこの町はどのように発展していくのだろうと、ワクワクしながら過ごしていたように思います。その後、ご存じのようにバブル経済の崩壊により日本経済は長い低迷期を迎えますが、平成6（1994）年に「都市びらき」が行われるなど、関西文化学術研究都市は計画の一部中止や縮小はあったものの、着実に学研都市として歩みを進めています。

しかしながら、学研都市の中の木津川市としてみた時に、皆さんはどのように感じられるでしょうか。中核施設となる、けいはんなプラザや国立国会図書館関西館は精華町に建設されましたし、立地する企業の数も、精華町が木津川市を圧倒しています。

次に、まちづくりとしてみた時はどうでしょうか。平成19（2007）年に旧木津町は、旧加茂町、旧山城町と合併し木津川市となりました。来年には記念すべき20周年を迎えます。慶ばしいことではありますが、木津川市の誕生から増加してきた人口も令和4（2022）年に8万人を突破した後、現在は緩やかな減少傾向にあります。また、同じ年には加茂地域が過疎地域として公示されるなど、本市の未来は手放しで明るいとは言いきれません。少子化の時代にあって、人口減少は本市だけの問題ではありませんが、これまで人口が増加してきたのは、新興住宅地の開発によって他の市町から本市に移り住んでくださったからです。一方、住民の高齢化は、かねてより懸念されている南加茂台だけではなく、兜台、相楽台、また木津川台などの住宅地でも進みつつある、というのが現状です。つまり、次世代が他所に移り住んでいるということが、要因として大きいのではないかと考えます。

木津川市の未来を思い描くにあたり、本市に生まれ育った若者が、大人になっても住み続けたいと思える魅力あるまちづくりが、今現在、できていますか。仕事がない、遊ぶところがない、食事やお酒を楽しめるお店が少ない、観光に来て宿泊施設がないなど、若者や子育て世代からみて魅力的な要素が少ないように思います。

また本市には、広域振興局や警察署、簡易裁判所など行政・司法機関が集まっており、まさに木津川・相楽地域の中核となる街です。地域の中核としてふさわしい街となる、という観点からも魅力あるまちづくり、インフラ整備が重要と考えます。

近隣自治体での最近の大きなインフラ整備などを見てみると、精華町では京奈和自動車道の下狹インターチェンジ（IC）付近に新たに工業団地を造成中です。また少し北の方へ眼を転じますと、城陽市では新名神高速道路の建設に伴い、先月5月31日から国道24号の新池～城陽IC手前までの東西路線が複車線化されました。城陽市や京田辺市の新名神高速のIC周囲には新たに物流拠点や工場などの事業所が建設されていますし、アウトレットモールなどの大規模商業施設も計画されています。もちろんすべての事業に自治体関わっているわけではないことは承知しています。

また大規模なインフラ整備はほとんどの場合、国や府が関わりますし、政治的要素が絡むこともあり、基礎自治体の努力だけでなし得るものではないことが多いのも事実です。しかしながら基礎自治体が、まちづくりに対して積極的にイニシアチブを発揮しなければ、理想的、一体的なまちづくりができないこともお分かりのことと思います。

質問要旨	<p>さて、本題に入ります。市議会議員として3年余り務めるなかで、本市に足りないのは、長期的なまちづくりの展望、そして、その実現に必要な自主財源だと感じています。「ふるさと納税」のような確実性が低く、いつ廃止されるかも分からない制度に頼るのではなく、安定した自主財源確保の手段を確立していかなければ長期的なまちづくりは見通せません。ヒト・モノが動く仕組みを構築し、それによって生みだされた財源でまちづくりを行う、という好循環を作りだすインフラ整備がまず必要ではないかと考えます。</p> <p>そこで、今回は主に本市の中心地ともいえる、市役所、J R木津駅周辺の整備、開発に関して、またまちづくりの基本ともいえる道づくりに関して、以下、市長の見解や考えをお聞かせください。</p> <p>(1) 京都山城総合医療センター前は駐車場へ入るための車で慢性的に渋滞しています。その緩和策をお聞かせください。</p> <p>(2) J R木津駅東口の駅前をどのように開発していくのか、市のビジョンを教えてください。</p> <p>(3) J R奈良線の複線化が木津駅までなかなか進まない理由は、また全線複線化に伴う駅前再開発計画はありますか。</p> <p>(4) 城陽井手木津川バイパス建設に際し、商業地の開発や、工業団地の整備などの計画はありますか。</p> <p>(5) 京奈和自動車道の複車線化の見通しは、また市としてその働きかけをどの程度行っていますか。</p> <p>行政と議会がともに、「子供たちが未来の木津川市にワクワクできるまちづくり」を進められたら、との思いで質問をいたしました。子供たちがワクワクするような答弁を期待しております。</p>
------	--

3 大角 久典	
質問事項： 災害発生時における避難所等の通信確保について	
質問要旨	<p>近年、全国各地で地震や豪雨、台風などによる自然災害が頻発し、災害対応における「情報の確保」がますます重要になっております。災害時には、避難所へ避難された市民の皆さまにとって、家族の安否確認や行政からの情報取得、医療・福祉サービスとの連携など、通信手段の確保は命を守る重要なインフラです。しかし一方で、大規模災害時には携帯電話基地局の停電や通信回線の混雑によって電話やインターネットがつながりにくくなる事例が多く報告されています。特に避難所においては、情報が届かないことによる不安や混乱を防ぐためにも、平時から通信環境を整えておく必要があります。そこで以下について伺います。</p> <p>(1) 現在、木津川市の指定避難所における通信環境はどのように整備されているのか。具体的には、W i - F i 環境の整備状況、公衆電話の設置状況、非常用電源の確保、携帯電話会社との連携などお聞かせください。</p> <p>(2) 災害時に通信障害が発生した場合を想定した代替通信手段の確保について、市の考えは。例えば、衛星通信機器や防災行政無線、移動基地局車、簡易無線機など、多重的な通信手段の導入や備えが必要と考えるが、現在の備えと今後の方向性についてお聞かせください。</p> <p>(3) 避難所で市民が安心して情報を得られる環境づくりについて伺います。</p> <p>高齢者や障がいのある方、日本語での情報取得が難しい外国籍住民など、情報弱者への配慮も重要です。誰もが必要な情報にアクセスできるよう、情報提供の多様化や通信支援体制の構築について市の見解をお聞かせください。災害時に「情報が届く」ということは、利便性ではなく、市民の命と安心を守る基盤です。市としても通信環境を災害対策の重要な柱として位置づけ、平時から備えを進めることが必要であると考えます。</p>

質問事項： 城山台地域の交通安全対策について	
質問 要 旨	<p>城山台地域は、住宅開発とともに人口増加が進み、多くの子育て世代が暮らす活気ある街となっています。一方で、交通量の増加に伴い、地域住民の皆さまから交通安全に対する不安の声が多く寄せられています。</p> <p>特に、通学時間帯における児童・生徒の安全確保は喫緊の課題です。城山台小学校や木津南中学校へ向かう通学路では、車両のスピード超過や抜け道利用、横断歩道付近での一時停止違反などが見受けられます。</p> <p>また、坂道や見通しの悪い交差点も多く、歩行者や自転車利用者が危険を感じる場面も少なくありません。地域の皆様からは、「ヒヤリとした」「事故が起きる前に対策してほしい」という切実な声が届いております。</p> <p>そこで、以下3点について質問いたします。</p> <p>(1) 城山台地域における交通事故やヒヤリハット情報の把握についてです。市として、城山台地域で発生している交通事故件数や危険箇所をどのように把握・分析されているのか。また、地域住民や学校、PTAなどからの要望をどのように交通安全対策へ反映されているのか。</p> <p>(2) 危険箇所への注意喚起看板の設置、路面標示の強化、防護柵やカーブミラーの整備、信号機設置要望など、これまでどのような対策を講じてこられたのか。</p> <p>(3) 地域と連携した交通安全の取り組みについてです。交通安全は行政だけでなく、地域・学校・警察との連携が不可欠です。見守り活動や啓発活動をさらに推進するため、市としてどのように支援していく考えですか。</p>
質問事項： スケートボードパーク設置について	
質問 要 旨	<p>近年、スケートボードは若者を中心に人気が高まり、東京オリンピックでの日本人選手の活躍をきっかけに、多くの子どもたちが憧れを抱くスポーツとなりました。本市においても公園や広場などでスケートボードを楽しむ若者の姿を見かける一方で「滑る場所がない」「周囲に迷惑がかからない環境で練習したい」といった声を耳にしております。また、市民の皆さまからは騒音や安全面への不安から公園利用に関する課題も寄せられています。こうした状況を踏まえるとルールを守って安心して利用できる専用施設の整備は、若者の健全育成と地域の環境保全の両面から重要であると考えます。スケートボードパークは単なる運動施設ではありません。若者の居場所づくり、健康増進、世代間交流、さらには大会開催や地域活性化にもつながる可能性を持っています。近隣自治体でも整備が進み、特色あるまちづくりの一環として注目されています。そこで以下の質問をいたします。</p> <p>(1) 本市では、市内におけるスケートボード利用者の実態や市民ニーズをどのように把握しているのか。</p> <p>(2) 現在、公園や公共施設等においてスケートボード利用に関する苦情や課題はどの程度あるのか、また、どのように対応しているのか。</p> <p>(3) 若者の居場所づくりやスポーツ振興の観点からスケートボードパーク整備について検討する考えは。</p> <p>(4) 新設だけでなく既存公園の一角や遊休地を活用した簡易的なスケートスペースの設置についての可能性も検討すべきと考えますが市の見解は。</p>

4 西山 幸千子	
質問事項： 学校の部活動の役割とは	
質問 要 旨	<p>日本全体で少子化が進んで、中学校でも部活動の存続が難しい時代になっています。そのため地域移行の議論が進んでいます。</p> <p>あらためて部活動の役割と意義について問います。</p> <p>(1) いま市立中学校で行われている部活動にはどのようなものがありますか。</p> <p>(2) 具体的に地域移行を進めようとしているのは、すべての部活動が対象ですか。また、その理由は。</p> <p>(3) 特に文化部で少人数で活動しているものはありますか。また、普段どのような活動内容ですか。部活動の保障をどう考えていますか。</p> <p>(4) 不登校気味の生徒にとっては文化部があるという意味も大きいのではないですか。</p>
質問事項： ごみ減量は市民の協力で	
質問 要 旨	<p>第1回定例会で、不燃ごみ等中間処理業務委託料の支払いの一部に循環型社会推進基金から4700万円を振り替えました。この基金の使い方には市民からも疑問視する声が上がっています。また、全国的にナフサ不足が原因で自治体指定のごみ袋の不足が報道されていますが、市のHPや市公式LINEでは、「R8年度分は問題なく確保できる」とことと合わせて、「引き続きごみ減量への協力依頼」がアナウンスされました。そこで以下のことを問います。</p> <p>(1) 循環型社会推進基金を作った理由と経緯は。</p> <p>(2) ごみ袋を有料化した目的は。市民への説明会の回数とその時に出された意見等は。</p> <p>(3) 合併前に旧3町で行われていた、燃えるごみ以外の収集方法と分別の種類は。</p> <p>(4) 7年度と8年度のごみ袋の仕入れ金額はどう変化しましたか。</p> <p>(5) 循環型社会推進基金の用途を際限なく広げるのではなく、限定されるべきだと思いますが、いかがですか。</p> <p>(6) 市民の協力でごみの減量や節約を進めるべきです。その上で、基金をこれ以上貯める必要がなければ、ごみ袋の値段を見直し、市民に直接還元すべきではないですか。</p>
質問事項： 多様な市民の声を反映するために	
質問 要 旨	<p>1 審議会・協議会・各委員会などの委員の選出基準は。公募委員の役割は。学識経験者委員が入る意味は。</p> <p>2 公募委員の状況と女性委員の比率は。女性の比率が伸びない原因をどのように考えていますか。</p> <p>3 「学識経験者」と規定しているが、そうではない委員が任命されている場合について以前指摘しました。「一定の整理が必要だと考えている」との答弁でしたが、その後どのように「整理」されましたか。</p>

令和8年第2回木津川市議会定例会（6月16日）

一般質問通告書

1	森本 隆
質問事項： 若い世代に選ばれる住宅政策を問う	
質問 要 旨	<p>近年、全国的に住宅価格や建築費の高騰が続いています。建築資材価格の上昇、人件費の上昇、更には金利上昇の影響もあり、若い世代にとって住宅取得のハードルは年々高くなっています。特に子育て世代においては、住宅取得に加え、教育費、生活費、車両維持費など、家計負担が大きく、「木津川市に住み続けたいと思っても、住宅を取得できない」という声も聞かれるようになっていきます。</p> <p>本市はこれまで、関西文化学術研究都市の発展とともに、子育て世代の流入により成長してきたまちです。そのような中で、今後も「若い世代に選ばれるまち」であり続けるためには、住宅政策を、単なる民間任せではなく、定住促進政策として位置付けていく必要があると考えます。</p> <p>このような背景のもと、お伺いします。</p> <p>(1) 現在の若年世帯を取り巻く住宅取得環境について、どのように認識しているのか。また、建築費高騰や地価上昇が、本市への定住促進に与える影響について、どのように分析されているのか。</p> <p>(2) 今後も子育て世代に選ばれるまちであり続けるために、住宅政策を人口戦略・定住戦略としてどのように位置付けているのか。</p> <p>(3) 若年世帯の住宅取得や三世帯近居を促進する観点から、市街化調整区域における住宅立地について、柔軟な制度運用や一定条件下での用途緩和を検討すべきと考えるが、見解をお伺いいたします。</p> <p>(4) 市内に存在する空き家について、若い世代向け住宅として活用を進めるため、リノベーション支援、若年世帯向け補助、空き家バンク強化などをさらに推進すべきと考えるが、市の取り組みと今後の方向性についてお伺いします。</p> <p>(5) 高の原駅周辺など、人口増加が進む地域においては、住宅供給だけではなく、子育て支援施設、コミュニティ施設、公共サービスを含めた面的整備が重要と考えます。今後の住宅政策と公共施設整備を、どのように連携して進めていくのか、市の考えをお伺いいたします。</p>
質問事項： リチウムイオン電池廃棄問題を問う	
質問 要 旨	<p>近年、スマートフォンやモバイルバッテリー、電動工具、電動自転車などの普及に伴い、リチウムイオン電池の使用量は急増しています。</p> <p>一方で、その廃棄方法については市民への周知が十分とは言えず、誤った廃棄による火災事故が全国的に多発しております。実際、ごみ収集車や処理施設での発火事故が報告されており、現場の安全確保が大きな課題となっています。</p> <p>また、リチウムイオン電池は資源として再利用可能である一方、回収ルートが分かりにくく、適正処理が進んでいない現状があります。</p> <p>このような背景のもと、お伺いします。</p> <p>(1) 本市におけるリチウムイオン電池の廃棄実態と、収集・処理過程における事故発生状況について、どのように認識しているのか。</p> <p>(2) 市民への分別方法や回収ルールの周知について、現状の取り組みと課題をどのように捉えているのか。</p> <p>(3) 回収拠点の拡充や、家電量販店・事業者との連携など、回収体制の強化に向けた具体的な取り組みについてお伺いします。</p> <p>(4) 発火リスクの低減に向けた安全対策として、収集・処理現場における対策の強化について、今後の方針をお伺いします。</p> <p>(5) 資源循環の観点から、リチウムイオン電池の再資源化を進めるための施策について、見解をお聞かせください。</p>

2 小見山 正	
質問事項： 空き家・空地の管理について	
質問 要 旨	<p>人口減少に伴い、空き家・空地は増加し、その管理は今後さらに重要な問題になると考える。その中でも、所有者不明土地・建物は、管理をするよう求めようにも、その相手がいないという状況になる。</p> <p>このような問題への対応策の一つとして、所有者不明土地・建物管理命令発令の申立てが考えられる。</p> <p>(1) 市はこの制度を活用しているのか。また、今後活用する予定はあるのか。</p> <p>(2) この制度を活用する上での課題は何か。</p> <p>(3) 市長名義で、申し立てをすることもできるが、自治会などが申し立てをする際に、市が補助金を出すという枠組みを作ることはできるのか。</p>
質問事項： 放置竹林対策について	
質問 要 旨	<p>竹林を放置すると、山林の荒廃につながる。そこで、竹の伐採などによる竹林の管理が重要となる。</p> <p>(1) 市は放置竹林解消のためにどのような対策を取っているのか。また、竹を活用した産業を振興していく考えはあるのか。</p> <p>(2) 市内では、NPOやボランティアを中心に放置竹林の問題に取り組んでいる市民団体があるが、市はどのように協力しているのか。</p> <p>(3) 府も放置竹林の解消を複数の市町村にまたがった重要な地域課題と捉えているようであるが、市はどのように協力しているのか。</p> <p>(4) 市内の放置竹林解消に向けて、府に対して、どのような要望をしていくのか。</p> <p>(5) 放置竹林解消に向けたロードマップはあるのか。</p>
質問事項： 補助金交付団体への監督について	
質問 要 旨	<p>市内の多くの団体が補助金を受けて活動している。</p> <p>補助金の原資は税金であるし、補助金を受けている団体は公共性のある事業を行っていることが多いので、適正に運営されていることは市民にとって重要な関心事である。</p> <p>(1) 団体内部の意思決定の手続きの適正性、その内容の妥当性、ガバナンスの状況などを市はどの程度把握しているのか。</p> <p>(2) 問題を認識したときは、市から是正の指導などをどの程度しているのか。</p>

3 高岡 伸行	
質問事項： 市有財産の効果的な活用は	
質問 要 旨	<p>まちづくりの貴重な資源である市有財産（市の土地等）の活用方法は、これまでからも検討されてこられたと考えます。平成20年（2008年）6月には、市有財産利活用推進検討委員会が設置されました。現在の取組状況を問います。</p> <p>(1) 木津川原田の市有地の売却ができていません。</p> <p>令和元年第4回定例会での私の質問の議事録には、平成30年（2018年）6月に売払い公告をするも応札がなかったとあります。平成31年（2019年）1月にはヤフー官公庁オークションに出品するも応札はなく、同年9月にも出品されましたが、同じ結果となり問い合わせもなかったとのことです。</p> <p>当時、国税庁が定める固定資産評価額により約1億700万円（約500坪）で売払い公告されましたが、立て続けに不調に終わったということです。その後、賃貸も含め問い合わせ等はあると聞いていますが、現在の取組状況は。</p> <p>(2) このような市有地は他にもあるのか。</p>

4 野田 えり

質問事項： より安心な産後のために

質
問
要
旨

妊娠・出産は女性にとって人生の一大事であり、心身ともに大きな変化をもたらします。子育て支援に力を入れている本市として、まずは子育てのスタートである妊娠・出産から産後におけるサポート体制についてお伺いします。

(1) 産後ケア事業について

- ① 産後ケア事業の周知方法は。
- ② 利用料金について、今後の価格改定の予定は。
- ③ 宿泊型、日帰り型と訪問型の乳房ケアの違いは。

(2) 産後ケア事業の他に、産前産後のお母さんをサポートする市の体制は。

令和8年第2回木津川市議会定例会（6月17日）

一般質問通告書

1 福井 平和	
質問事項： ギャンブル等依存症対策について	
質問要旨	<p>「特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律」、いわゆる I R 整備法が平成 29 年 3 月に施行され、大阪・関西万博跡地では、カジノを含む統合型リゾート施設 I R の開業が令和 12 年秋頃に予定されています。</p> <p>I R の整備にあたっては、ギャンブル等依存症対策を抜本的に強化する必要から、平成 30 年 10 月に「ギャンブル等依存症対策基本法」が施行され、改正法を経て今日に至っております。</p> <p>しかしながら、パチンコ・パチスロ、公営競技、オンラインカジノなどをめぐっては、依然として依存症による深刻な問題が発生しています。多額の借金による生活困窮や家庭崩壊、虐待、自殺、さらには若年層の犯罪に繋がる事例も指摘されているところであります。</p> <p>このような中、ギャンブル等依存症は、本人の意思の弱さや性格の問題ではなく、適切な治療や支援によって回復が可能な病気であるとの認識が重要視されつつあります。</p> <p>そこで、本市におけるギャンブル等依存症対策についてお伺いします。</p> <p>(1) I R 開業が本市に与える影響について、市の認識は。</p> <p>(2) 社会福祉施策におけるギャンブル等依存症対策の現状と、今後の取組方針は。</p> <p>(3) 学校教育における児童・生徒及び保護者への啓発・注意喚起の取組は。</p>
質問事項： 上狛駅前広場のロータリー化について	
質問要旨	<p>「やすらぎタウン上狛広場」は J R 上狛駅前に昭和 61（1986）年に設置され、40 年が経過している現在も、山城町上狛、椿井地区の玄関口として、地元住民をはじめ山背古道などでの来訪者にとって、一時の休憩スポットとして大切に利用されている公の施設であると認識しています。</p> <p>このような中、広場設置当時より上狛駅周辺の交通量は相当増加しており、駅前という道路事情から一定の交通整理及び安全対策を講じる必要がある状況です。</p> <p>そこで提案ですが、現状の広場機能を、広場とその西側の駐輪場の間のスペースに移設した上で、跡地に「駅前ロータリー」を新設して、駅前の安全面・機能面を高めてはと考えます。また、ロータリー化により「やましろバス」の上狛駅経路も可能となり、駅利用者の利便性向上と路線の充実にも繋がります。</p> <p>市長の認識と見解を伺います。</p>
質問事項： コンビニ出店と小規模商業施設の誘致について	
質問要旨	<p>木津川市山城総合文化センター「アスパアやましろ」の駐車場の一部の土地について、コンビニエンスストアの出店を目的とした「事業用定期借地権」設定のための覚書を、令和 8 年 4 月 27 日、株式会社ローソンと締結され、令和 9 年 4 月の開店予定と伺っています。</p> <p>また、関連して、先般の国勢調査速報値からも、人口の減少、高齢化進行の加速、生活様式の変化などから、地域社会や地域経済の維持に向けた対策が急務と考えます。</p> <p>そこで、以下の点についてお尋ねします。</p> <p>(1) 覚書について、締結に至る経過と内容は。</p> <p>(2) 事業用定期借地権の設定について、当該行政財産の管理への影響は。</p> <p>(3) 本市の 2025 年国勢調査速報値の概要は。</p> <p>(4) 今後、地域とコンビニやスーパーなどの小規模商業施設とが共生できるような環境づくりが重要になってくると考える。施設の誘致策など市長の考えは。</p>

2 倉 克伊	
質問事項： 城陽井手木津川バイパスの進捗と今後のタイムフローについて	
質問 要 旨	<p>私は、城陽井手木津川バイパス（以下、国道24号バイパス）については、年に1回以上の質問を継続してきました。令和7年6月の一般質問では「地域に活用できる城陽井手木津川バイパスであることと、その周辺整備について」と題して質問をしました。</p> <p>城陽市から事業着手されて、A工区の城陽スマートインターチェンジ（S I C）から国道307号までの橋脚等の工事は完了し、徐々にではありますが、南の工区に向けて進むものと期待をしています。木津川市域は、令和2年から市が地籍調査に先行着手し、その後、国も測量に着手されていますが、まだまだ形が見えるには時間がかかりそうです。</p> <p>そこで、今後の進捗も含めて以下のことをお聞きします。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 現在の工事の進捗状況と今後の進捗予定は。 (2) 予備設計はいつ頃の完成予定か。地元地域へ説明の時期は。 (3) このバイパスと併せて要望されてきた府道枚方山城線の進捗は。 (4) 国道24号バイパス計画と併せての店舗誘致など、J R 棚倉駅周辺の整備と併せ、この地域の都市計画の見直しをしてはどうか。
質問事項： 木津川市の都市計画の見直しを	
質問 要 旨	<p>木津川市は合併して、今年度で20年を迎える。</p> <p>合併当初から今日まで、旧3町の都市計画を引き継ぎまちづくりを進めてきた。当初はその形態でよかったと考えるが、時の経過と共に残されていく計画が目につく。「新市・木津川市」の街づくりを今後どうしていくのか、今がその転換点かもしれない。</p> <p>特に、道路計画や市街化区域・市街化調整区域の線引きの考え方など、整理する必要が多く見受けられる。</p> <p>まずは、できるところから見直し、必要などころから検討すべきと思い、市の考えを求める。</p> <p>また、上粕地域の問題解決の考え方をお聞きする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 市街化区域とはどういう区域か。市の進め方は。 (2) J R 木津駅東地域の現状の進め方は。 (3) 市内を一体的にするには、加茂地域から城山台への直接的な幹線道路が必要と考える。都市計画審議会で審議されてはどうか。 (4) 上粕地域は、地元の若者が生まれ育った地に住もうと求めても、既存住宅地域以外に住宅用地が少ない。樺井・上粕バイパスと既存集落の間を市街化区域に見直しはどうか。 (5) 木津川新橋が開通以来、上粕地域では抜け道として車両が増加するとともに事故が増え、地元でも問題視されている。上粕駅北踏切（大里第2踏切）から東林の踏切に沿って、合併以前から地区計画地域があり道路計画が設定されている。問題解決に向け、この地区計画道路を早期に実行に移せないか。

3 谷口 英子	
質問事項： 木津川市の教育行政を問う	
質問 要 旨	<p>本市の総合計画には、「ともに『学び』『喜び』『成長し』未来を生きる子どもを育むまちづくり」が掲げられています。まちの将来像には「子どもの笑顔が未来に続く幸せ実感都市木津川」が描かれています。</p> <p>ご存知のように、子育て支援と密接に関わるのが学校教育です。そのかじ取りをするのは教育委員会です。教育委員会の業務は幼児・学校教育から成人の生涯学習、そして文化財保護なども含む幅広いものですが、今回は学校教育に焦点を絞って質問いたします。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 今年度から市内全小中学校で学校運営協議会が導入されています。設置目的、組織体制、機能などについてお伺いします。 (2) 「教育委員会の所管する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書」は、改善・充実が必要ではありませんか。 (3) 学童交通誘導員・スクールガードリーダーの配置状況をお伺いします。

質問要旨	<p>(4) 小中学校のトイレ整備状況をお伺いします。</p> <p>(5) 小中学校の特別教室のエアコン整備状況をお伺いします。</p> <p>(6) 小中学校における通知表の記載方法はどのようになっていますか。</p> <p>(7) 増加する外国人児童の処遇について教育委員会の方針はありますか。</p> <p>(8) 恭仁小学校の児童数を増やすためにどんな対策をされていますか。</p> <p>(9) 城山台小学校における特定地域学校選択制の状況をお伺いします。</p> <p>(10) 特別支援学級の現状と課題をお伺いします。</p> <p>(11) 通級指導教室の現状と課題をお伺いします。</p> <p>(12) 教育支援センターの現状と課題をお伺いします。</p> <p>(13) サポートルームの現状と課題をお伺いします。</p> <p>(14) 子どもたちの読書の機会を増やすためにどんな対策をされていますか。</p>
------	--

質問事項： 木津川市の観光産業をみんなで盛り立てよう

質問要旨	<p>今年2月17日に恭仁宮跡が国の特別史跡に指定されたことは記憶に新しいところです。この貴重なチャンスをどう生かしていくのか、市長の手腕が試されています。</p> <p>文化庁は「文化観光推進法」に基づき、文化・観光・経済の好循環を目指すことを提案しています。観光庁は「観光立国推進基本計画」を策定し、戦略産業として観光を位置づけています。観光先進地の情報等はネットで簡単に手に入りますが、実践するには超えなくてはならない幾つかの障壁があると感じます。</p> <p>そこで、お聞きします。</p> <p>(1) 木津川市の観光の強みと弱みをどう考えていますか。</p> <p>(2) 観光戦略を立てる上での基礎情報となるデータは揃っていますか。</p> <p>(3) 市の観光商工課と観光協会の連携は十分ですか。</p> <p>(4) 観光人材の育成と確保の取組状況をお伺いします。</p> <p>(5) 観光地域づくり法人DMOとの連携状況はどうなっていますか。</p>
------	--

4 堤 征一郎

質問事項： 耕作放棄地及び管理不全の住宅について

質問要旨	<p>市内の農地には、木や雑草が生い茂り既に耕作が放棄されている場所があります。また、居住しているにも関わらず、庭の木が周囲に広がり視界を遮って近隣の居住環境を悪化させるケースが戸建て住宅やマンションにも見受けられます。</p> <p>田畑や住宅を所有する以上、周囲の環境に配慮することは所有者の義務であり、その義務を放棄した状態を野放しにしておくと、市民間の不公平感が広がります。このような場合には行政が所有者に指導する必要があると考えます。</p> <p>そこで、以下の点について質問します。</p> <p>(1) 耕作放棄地として市が認識しているのは何か所か。</p> <p>(2) 耕作放棄地について、どのような指導をしているのか。</p> <p>(3) 耕作放棄地の課税区分を雑種地に変更するなどの対応は可能か。</p> <p>(4) 管理不全空家として市が認識しているのは何戸か。</p> <p>(5) 居住している場合で、管理不全となっている住戸を市は認識しているのか。</p> <p>(6) 今後は管理不全の住戸が増えていくと予想される中で、市の対応は。</p>
------	---

質問事項： 公共施設包括管理について	
質問 要 旨	<p>本市では、公共施設について包括管理業務委託契約に基づき、修繕や管理業務などを包括管理業者に委託することになりました。今後、民間のノウハウを導入することで計画的かつ効率的に公共施設を管理できることが期待されます。</p> <p>一方で、市が業務内容を把握し、責任をもって指導していくことが必要です。</p> <p>そこで、以下の通り質問いたします。</p> <p>(1) 包括管理事業者は、他の市町村において同様の業務をしている事例があるのか。</p> <p>(2) この2か月間の管理業務の状況を市はどのように把握し、評価しているのか。</p> <p>(3) 問題が生じた場合、市はどのように指導するのか。また、指導後に改善されない場合は、どのように対処するのか。</p>
質問事項： 電子投票について	
質問 要 旨	<p>全国各地で選挙における電子投票の導入が報じられています。近隣市町でも急速に導入が進んでいます。</p> <p>選挙は、民主主義を実現する最も大切な手段です。一方で、せっかくの一票が無効となるケースがあることや、選挙実施に多大なコストがかかることが、現状の制度の問題点として挙げられています。</p> <p>電子投票を導入することで、投票所に設置されたタブレット端末を使って投票する段階で意思確認が必ず特定でき、集計作業も含めた行政コストも軽減されると考えます。</p> <p>そこで、以下の質問をします。</p> <p>(1) 直近の3回の選挙及び直近の市長、市議会議員選挙で、無効票は何票か。また、その内容はどのようなものか。</p> <p>(2) 高齢者など投票用紙に記載することが難しい場合には、どのような配慮をしているのか。</p> <p>(3) 電子投票にした場合、選挙にかかる費用は一回につき、軽減される予想額は。また、予想される導入費用はいくらか。</p> <p>(4) 電子投票の問題点は何か。</p> <p>(5) 市で導入する考えはあるか。</p>

令和8年第2回木津川市議会定例会（6月18日）

一般質問通告書

1 草水 基成	
質問事項： 地域力の向上を求めて	
質問要旨	<p>人口減少やライフスタイルの多様化が進む中、自治会における加入率の低下と役員のなり手不足が全国的な課題となっています。このままでは、防犯パトロールや出合作業といった従来の地域活動の維持が困難となり、治安の悪化や地域コミュニティの衰退につながるものが危惧されます。</p> <p>(1) 市民の安全・安心な生活環境を快適にするため、本市公式LINEによる防犯情報の収集元と配信内容の基準、市内の各種啓発等看板の維持管理、および防犯灯や街灯の設置根拠や市民の声の集約など、地域の防犯体制と管理状況について伺います。</p> <p>また、治安悪化や放火など地域の防犯上の大きなリスクとなる空き家について、安全な生活環境を確保する観点から、市としてどのように空き家解消に向けた取り組みを進めているのか、現状の課題認識と今後の具体的な方針をお聞かせください。</p> <p>(2) 本市において、自治会未加入者や退会者の増加は、残された役員や住民への負担を増大させています。特に高齢化が進む地域では、溝掃除や草刈り、見守りや行事運営といった地域活動の維持が極めて困難な状況です。これらは地域の環境や安全を維持する「公共の福祉」に直結する活動であり、このまま持続不可能な状態を見過ごすことはできません。</p> <p>そこで、本市における現在の状況認識と、今後の新たな地域維持の仕組みづくりに対する見解をお聞かせください。</p>
質問事項： 気候変動下の安全網強化を	
質問要旨	<p>近年の地球温暖化に伴う酷暑・猛暑は、もはや災害レベルであり、住民の命を脅かす深刻な課題となっています。特に、学校という安全網が機能しなくなる夏休み期間中、家庭環境に課題を抱える経済的困窮者や、日常的に家族の介護・世話を担うヤングケアラーの子どもたちは、孤立などのリスクに直面する恐れがあります。これら『酷暑×困窮×孤立』の複合的リスクから当事者を守るため、次の点について伺います。</p> <p>(1) 学校が休みになることで、給食による栄養摂取の機会が失われ、教職員による日常的な見守り（ネグレクトや虐待の兆候、ヤングケアラーの過重負担の発見）が途絶えます。本市として、夏休み期間中に生活困窮家庭やヤングケアラーの負担が潜在化・深刻化するというリスクをどのように認識しているか、見解を伺います。</p> <p>(2) 気候変動に伴い「酷暑」をはじめとする激甚化する気象への対策が急務となっています。京都府内に「熱中症特別警戒アラート」が発表されなければ「クーリングシェルター」として活用できない仕組みですが、アラートの有無に関わらず日常的な運用の工夫が必要と感じます。そこで、夏休み期間中、庁舎1階の住民活動スペースや空き会議室、ロビーなどの公共施設を「クーリングシェアスポット」として広く位置づけ、児童・生徒の自習スペースとしても有効活用していくお考えはないか。</p> <p>また、市民のスポーツ振興や災害時の避難所としての機能強化の観点から、木津川市中央体育館アリーナ内への空調設備の整備について、現在の検討状況と今後の見通しをお聞かせください。</p>
質問事項： 答弁された事のその後について	
質問要旨	<p>次のことについて本市の姿勢・進捗状況を伺います。</p> <p>府県境事業者に対し、道路占用許可満了物件の撤去に関する「再々通知」が出されているにもかかわらず、現時点で改善が見られません。この進捗状況に対する本市の現状認識と、通知を無視し続ける事業者への今後の法的な対抗措置などについてお聞かせください。</p>

2 兎本 尚之	
質問事項： 市民の移動手段として免許不要の電動モビリティ等の購入に補助を	
質問 要 旨	<p>木津川市は民間の住みよさランキングでも高い順位に位置していると認識しており、地域差はあれども、生活しやすいまちだと思います。しかし、自家用車等の移動手段が必須条件となります。また、奈良交通路線バスの再編で路線の維持、休止や廃止などは市民生活に大きな影響を与えることになり、市の財政運営にも大きく影響があります。令和5年前後にはバス路線の話題は大きくなりました。</p> <p>そこで、市民の移動手段の確保に対する考えについて聞きます。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) J R加茂駅とJ R奈良駅間のバスの今後の方向性は。 (2) 「ちょこっとながも」の今後の方向性は。 (3) 免許返納の状況は。 (4) 公助、共助も大切だが、市民自らが移動手段を確保し、自助能力を向上させることができる環境が必要と考えるがどうか。 (5) 特定小型原動機付自転車、シニアカーや電動アシスト自転車などの免許不要のモビリティの購入に補助を考えてはどうか。 (6) 自治体に対して電動モビリティ等の国の補助はないか。
質問事項： 加茂地域の発展の支援を	
質問 要 旨	<p>令和6年に市の総合計画後期基本計画と総合戦略を、今年3月には都市計画マスタープラン後期計画を策定しました。今定例会には、過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法に基づき、加茂地域を対象として、令和8年度から令和12年度を計画期間とする木津川市過疎地域持続的発展市町村計画の策定についての議案が上程されています。</p> <p>そこで、提案、質問をさせていただきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 都市計画マスタープランに「加茂地域と城山台を結ぶ新たな骨格道路の整備検討」とある。木津加茂線の拡幅、またはバイパス道路の新設を考えているのか。あわせて都市計画道路下梅谷鹿背山線の整備を。 (2) 木津東地区やJ R木津駅東のように木津地域だけでなく、加茂地域の市街化区域のまちづくりが進むよう支援を。 (3) 地域おこし協力隊の今後の方向性は。 (4) 集落支援員制度の活用を。 (5) 恭仁宮跡が特別史跡に昇格し、残念石も大阪から帰ってきました。まちづくりにどのように活かしていく考えを持っているのか。 (6) 過疎地域の持続的発展に向けた実施計画など具体的な施策を考えていただきたいがどうか。 (7) 「まちづくり事業推進室」はあるが、まちづくりを統括して考える所管はどこか。

3 谷川 光男	
質問事項： コミュニティバスの再編見直しを	
質問 要 旨	<p>コミュニティバス等、市民の皆様にとって使いやすい満足度の高い地域公共交通づくりに取り組んで19年が経過しました。</p> <p>その間、市民の声を聞き、1日フリー乗車券の発行や停留所の位置変更等に取り組み、昨年の期間限定の支援事業（運賃を半額にする）により利用者数は一時的に増加しましたが、根本的には改善されず、満足度の低い均衡のとれていない地域交通になっているように私は思います。</p> <p>そこでお尋ねします。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 木津地域の「きのつバス」、加茂地域の「かもバス」、山城地域の「やましろバス」に対する住民からの要望は。 (2) 過去に市民アンケート等をされたことについて、協議会での検討は。 (3) 支援事業により利用者が増加しましたが、その結果をどう考えていますか。また、お得な1日フリー乗車券の利用減について伺う。

	<p>(4) やましろバスの5月における運行時間ごとの利用者人数等を伺う。</p> <p>(5) 今回地域要望されている「やましろバス」のルート変更等について伺う。</p>
質問事項：一人暮らし世帯等について	
質問要旨	<p>総務省の人口推計によると、日本の総人口の約3人に1人が65歳以上となり、人口減少や核家族化が進む中、木津川市でも一人暮らし世帯や独居高齢者世帯は増加傾向にあると思われます。そこでお尋ねします。</p> <p>(1) 市における高齢者人口、一人暮らし世帯等の実態は。</p> <p>(2) 地域におけるNPOやボランティア等による見守り活動の実態と市の関係団体（社会福祉協議会等）による情報共有について伺う。</p> <p>(3) 市の取り組み（方向性）について伺う。</p>
質問事項：介護サービス利用について	
質問要旨	<p>介護サービスを利用するためには、木津川市に申請して「介護や支援が必要である」と認定されることが必要です。窓口で申請し、訪問調査や医師の意見書によりコンピューター判定（一次判定）し、介護認定審査会（二次判定）において、要介護状態の区分が判定され、本人（家族に）通知される流れとなっていますが、認定までの時間短縮等についてお尋ねします。</p> <p>(1) 年間の事務処理件数（新規・更新等）は。</p> <p>(2) 介護認定審査会の審査基準について伺う。</p> <p>(3) 申請から認定までに要する日数は。</p> <p>(4) 木津川市の地域包括支援センターの人数（定数）と実態は。</p>

4 宮嶋 良造	
質問事項：学校給食を無償に	
質問要旨	<p>1 学校給食は、学校教育の一部ですか。</p> <p>2 学校給食は、憲法第26条第2項に示す「義務教育はこれを無償とする」に含まれますか。</p> <p>3 2026年度から学校給食費を引き上げました。経緯を説明してください。</p> <p>4 国の小学校給食無償化で、府内では木津川市と京田辺市を除き、無償になりました。市でも無償にすべきではないですか。</p> <p>5 中学校では保護者負担が月1,200円増えました。無償化に逆行しています。中学校も無償化すべきではないですか。</p> <p>6 学校給食会計を公会計にすべきではないですか。</p> <p>7 個々の事情で、給食を取らない児童生徒の給食費は、徴収しない、または軽減する措置がとられていますか。</p> <p>8 私立小中学校に通う児童生徒への給食費補助は、市立小中学校と同じ扱いですか。</p>
質問事項：安心して医者にかかれるまちに	
質問要旨	<p>1 5月に山城町上粕の開業医が閉院しました。地域の医療・健康にどのような影響が考えられますか。</p> <p>2 現在、市内の開業医の所在地に偏りがあります。日常的な健康管理や病気の初期診療（一次診療）を何でも気軽に相談できる身近な医師（かかりつけ医）を持つために、市はどのような施策を行いますか。</p> <p>3 通院をしやすくするために、山城町ではコミュニティバスのルート変更の要望が出ています。どう対応しますか。</p> <p>4 祝園駅周辺に複数の開業医等があります。以前からのコミバス延伸の要望に応える時ではないですか。</p> <p>5 通院をしやすくするために「暮らしのガイドブック」にあったような地図を入れた各開業医の情報提供してはどうですか。</p>

質問事項： 市長も一緒に平和行進を

質問 要 旨	<ol style="list-style-type: none">1 戦争を体験した市民が少なくなっています。戦争や被爆の恐ろしさ、平和の尊さをどのように継承していきますか。2 市長は、6月26日に木津川市を通る「国民平和大行進」の参加者を激励し、行進に参加してはどうですか。3 非核平和都市宣言の記念碑を市役所か、市役所南公園に建立してはどうですか。4 政府が核兵器禁止条約に調印・批准するように働きかけてはどうですか。
--------------	---